

書籍『図説 %Z法と対称座標法の入門』の正誤表（初版 第2刷）

題記の書籍をお買い上げ頂き、誠にありがとうございます。その書籍の中で、下表に示す箇所に誤記がありましたので、お詫びして訂正します。
 なお、下表の「訂正箇所」の欄に赤色で示した事項が、今回の追加訂正分です。 著者；柴崎 誠著者

訂正箇所	誤っている表記	正しい表記
P152 の 6 行目	・・・電源電圧値の E_{SA} , E_{SA} , E_{SA} を・・・	・・・電源電圧値の E_{SA} , E_{SB} , E_{SC} を・・・
P161 の(11・17)式	$\dot{V}_1 = \dot{E}_{SA} - \dot{Z}_1 \cdot \dot{I}_1 = \left(1 - \frac{-\dot{Z}_1}{\dot{Z}_0 + \dot{Z}_1 + \dot{Z}_2}\right) \dot{E}_{SA}$	$\dot{V}_1 = \dot{E}_{SA} - \dot{Z}_1 \cdot \dot{I}_1 = \left(1 - \frac{\dot{Z}_1}{\dot{Z}_0 + \dot{Z}_1 + \dot{Z}_2}\right) \dot{E}_{SA}$
P179 の(15・30)式	$\doteq 1.0784 [\text{pu}] \angle 0 [^\circ]$	$= 1.0784 [\text{pu}] \angle -3.55 [^\circ]$ (E_{SA} とほぼ同位相)
P192 の例題 6 の「解法と解説」の中の(1)式から 2 行上から	(説明；次の二重線を施した 3 か所の「3」が余分であるため、3 か所とも「3」を削除して修正する。 ・・・ 題意の未補償分の 11 869[kV・A/相]の値から $\doteq \%Z_C[\%]$ の値、及び、零相分 $\%Z_0[\%]$ の値を、 $3\%R_N[\%]$ と $\doteq \%Z_C[\%]$ の並列合成値で求めます。 $\doteq \%Z_C[\%] = -j \frac{10\,000 [\text{kV}\cdot\text{A}]}{3[\text{相}] \times 11\,869 [\text{kV}\cdot\text{A}/\text{相}]} \times 100[\%] = -j 28.08[\%]$ (1)	
P234 の図 2 の中	図 2 の E_A と E_{SA} が逆に記載してある。	図 2 の E_A と E_{SA} を入れ替えて修正する。
P253 の(26・1)式	$+j5 \times (X_{G2} + X_T) \doteq \frac{1}{-j5 \times 2 \omega C_1}$ (26・1)	$ 5 \times (X_{G2} + X_T) \doteq \left \frac{1}{5 \times 2 \omega C_1} \right $ (26・1)
P270 の 6.項の(1)項	(1) <u>微地絡</u> ____を生じた・・・	(1) <u>50% 地絡故障</u> を生じた・・・
P282 の図 30・10 の中のアーク表示	(誤記内容の説明) 図 30・10 の中の上相の A 相、中相の B 相、下相の C 相の <u>3 相分の全ての碍子表面にて閃絡状態を表すアークを描いてある。</u>	(修正方法の説明) 図 30・10 の中の <u>中相と下相の碍子表面のアークを消去して、上相の碍子表面のアークのみを残し、A 相にて 1 線地絡故障を生じている状態に修正する。</u>
P286 の図 30・14 の中	点線を基準に実線が「 <u>28.1° 遅れ</u> 」と記してある。	「 <u>32.0° 遅れ</u> 」に修正する。
以下余白		

以上